



不安より  
安心へ

G. カティング 著

*Safety, Certainty, and Enjoyment*  
by George Cutting

# 不安より安心へ

救いの確信と喜び

ジョージ・カティング著

# Safety, Certainty and Enjoyment

The Way of Salvation  
The Knowledge of Salvation  
The Joy of Salvation

by  
George Cutting

Publisher  
Evangelical Publishers  
Tokyo, Japan

「あなたはどのクラスで旅行しておられますか」

このようにお尋ねするのは、あなたが「永遠」に向かって旅をしておられるからです。その旅は、やがてまもなく終わりを迎えます。しかも、自分がいつ終点に着くのか、つまり、死という終着点にいつ到着するのは、だれにもわかりません。

「あなたはどのクラスで旅行しておられますか」。飛行機で旅行する場合は、ファーストクラス、ビジネスクラス、エコノミークラスがあります。この三種類を次のようにたとえてみましょう。自分がそのうちのどれに当たるか、確認してみてください。

ファーストクラス——救われており、しかも、そのこと（自分が天国に向かっていること）を知っている人。

ビジネスクラス——自分が救われているのかどうかかわからず、救いの確信を持ちたいと思っている人。

エコノミークラス——救われていないばかりか、救いにまったく関心のない人。

もう一度、お尋ねします。「あなたはどのクラスで旅行しておられますか」。自分が永遠にどうなるかが問われているのに、この問題に無関心であるとしたら、それは大きな間違いと言えるでしょう。

先日、ある人が、空港で待機していた飛行機にあわてて乗り込んで来て、ハアハアと息を切らしながら自分の座席にすわりました。

同乗客が「ぎりぎり間に合いましたね。すぐに離陸しますよ」と言うと、彼は、

荒い息づかいをしながら、「ええ。でも、……これで三〇分……もうかつたんですから、……走る……値打ちはありますね」と、とぎれとぎれに答えました。

「三〇分もうかつた！」私は心の中でそのことばを繰り返さずにはいられませんでした。あれほど一生懸命に走る価値が三〇分にあるとしたら、永遠にはどれほどの価値があるのでしょうか。

けれども、この世における自分の利益は抜け目なく求めても、やがて来る「永遠」に対しては、まったく目が開かれていない人があまりにも多いのです。

神はご自分の尊い御子を与えてくださり、御子は私たちの罪のためにカルバリで死んでくださいました。そのようにして、無力で反抗的な罪人たちに対する神の限りない愛が示されたにもかかわらず、彼らはその愛を気にも留めません。彼らは、神が罪を憎むと明言しておられるにもかかわらず、この世の人生の短さを知っているにもかかわらず、死後のさばきが恐ろしいものであるにもかかわらず、そして、ついには地獄で目覚め、耐えがたい自責の念を感じる可能性が高いにもかかわらず、

そのことに無関心です。人々は、まるで神もなく、死もなく、さばきもなく、天国も地獄もないかのように、悲惨な最期に向かって急いでいるのです。

この文章を読んでおられるあなたが、もしそのような人であるなら、神が、今すぐにも、あなたをあわれんでくださいますように。あなたがこの本を読んでおられるうちに、神があなたの心の目を開けてくださり、あなたの危険な状態を示してくださいますように。あなたは、終わりのない苦しみへの崖がけつぷちに立って、今にもすべり落ちようとしておられるのですから。

皆さん、まさかと思われるかもしれませんが、あなたの状態はまったく絶望的です。永遠について考えるのをこれ以上延ばしてはいけません。ぐずぐずしていると、サタン（悪魔）の思うままになってしまいます。サタンは「盗人」であり、「偽り者」であり、「人殺し」であることを覚えておいてください。スペインのことわざに『いつか：：しよう』という道は『一度も：：しない』という町に続いている」というのがありますが、実際そのとおりです。永遠に向かつて同じように旅をしている道連れ

のひとりとして、私は読者の皆さんにお願いします。「先延ばし」という名の道をこれ以上歩まないでください。「今」が「救いの日」であることを忘れないでください（Ⅱコリント六・2）。

しかし、あなたは次のようにおっしゃるかもしれません。「私は自分のたましいの幸いについて無関心ではありません。確信がないので、とても困っているのです。私は、あなたがおっしゃる『ビジネスクラス』の乗客のひとりなのです」。

### 確信が持てないこと

皆さん。「無関心」も「確信のなさ」も元は同じ——不信仰——です。無関心は、人の罪と滅びを信じないことから、確信のなさは、神が人を救うために備えてくださった唯一の方法を信じないことから生じます。この本は、自分が救われているこ



とを確信したいと願っている人たちのために書かれました。

あなたのたましいの苦悩は理解できませんし、あなたがこの最も重要な問題に熱心であればあるほど、「自分が本当に救われていること、そして永遠に救われていること」をはつきり知りたいたいと強く願われることでしょう。「人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありませんよ」（マタイ一六・26）。

あなたがご自宅から遠い所におられるとしましょう。暗い冬の夜で、道に迷ってしまいました。あなたは道路の分岐点に立って、どちらに行けばよいのか、通りすがりの人に尋ねると、その人は、「〇〇通りを行くのがよいと思いますよ。目的地に到着できればいいですね」と言うとします。あなたは、「思います」とか「……であればいいですね」とかいったことばで満足できるでしょうか。とてもできないでしょう。あなたはそれを確信したいと思うでしょうし、さもなければ、進めば進むほど不安が募ることでしょう。ですから、死んだあとで自分のたましいがどうなっ

てしまうのか心配でならないときに、食欲がなくなったり、眠れなくなったりしたとしても、何ら不思議なことではありません。

自分の財産を失うことは一大事です。

自分の健康を失うことはそれ以上の一大事です。

けれども、自分のたましいを失ってしまったら、

だれもそれを取り戻すことができないのです。

ここで、聖霊の助けを得て、はっきり説明しておきたいことが三つあります。

### ①救いの方法

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも……救われます」。

(使徒一六・31)